発表資料

韓国済州道における持続可能な消費の考察

済州道の環境負荷と持続可能な消費政策・事例・課題に関する発表資料



韓国 済州漢擎大学　1年生

パク・チャンビン

済州道とは

韓国最南端の火山島

位置と規模

韓国最南端に位置する最大の島。
「韓国のハワイ」とも呼ばれる人気観光地。

気候と自然

温暖な気候と美しい自然景観が特徴。
火山活動によって誕生した島。

漢拏山

島の中央に韓国最高峰の漢拏山
（標高1,947m）がそびえる。



世界自然遺産としての済州

ユネスコ世界自然遺産 登録年：2007年

城山日出峰

海底火山活動で形成された城壁状の
噴火口。日の出の絶景で世界的に有名。

万丈窟

世界最長級の溶岩洞窟。
独特の地下景観が高く評価されている。

漢拏山天然保護区域

韓国最高峰（1,947m）。
多様な生態系と希少動植物が生息する。



済州の火山地形・洞窟・自然保護区が「顕著な普遍的価値」として認定された。

観光地としての課題意識

豊かな自然を守りながら、持続可能な発展を目指して

観光客の増加

毎年多くの観光客が訪れ
資源消費が急速に拡大

廃棄物の増加

使い捨て製品の多用により
廃棄物が深刻な課題に

持続可能な政策

2040プラスチックゼロ済州など
環境保全政策を積極的に推進



持続可能な消費とは

現在と未来をつなぐ消費の考え方

> 将来世代の資源を損なうことなく、現在の生活水準を維持する消費行動



環境保全

自然・生態系を
守りながら消費する

経済発展

地域経済と観光産業を
持続させる

行動変容

住民・観光客の
意識と行動を変える

政策1：2040プラスチックゼロ済州

プラスチック廃棄物ゼロを目指す済州道の旗艦政策

使い捨てプラスチックの削減

一回使用プラスチック製品の使用を規制・代替品を普及

リサイクル率の向上

分別回収の強化とリサイクルインフラの整備を推進

再利用容器の普及

リユース容器の導入支援と返却システムの拡充

▼50%

2020年比プラスチック廃棄物削減目標

目標達成年：2040年



政策2：カーボンニュートラルとグリーン消費

2035年 カーボンニュートラル宣言



再生可能エネルギーの拡大

風力・太陽光発電の普及により、
島内のエネルギー自給率向上を推進

電気自動車の普及促進

国内トップクラスのEV普及率。
観光客向けレンタカーにも積極導入

住民・観光客へのグリーン消費促進

環境負荷の少ない消費行動を促し、
炭素排出量の削減を目指す

目標：2035年までにカーボンニュートラル達成

政策3：ESG観光の推進

環境（E）・社会（S）・ガバナンス（G）の視点から観光消費を見直す

環境への配慮

環境配慮型宿泊施設の利用

使い捨て製品の削減

プロギング参加（清掃活動）

地域社会への貢献

地元産品・地域商店の積極利用

地域文化・伝統の尊重

地元経済への直接貢献

持続可能な観光管理

済州観光公社によるESG推進

透明な観光政策の実施

観光客・事業者の協働

> 観光客自身が環境保全活動に参加することで、
> 消費と環境保護を結び付ける新たな観光モデルが形成されている。



具体的事例 1

ネットゼロツアー

グローバルユース・イン済州 2025



対象

韓国在住34カ国の外国人留学生

主な活動

海岸清掃・環境教育・再生可能エネルギー施設見学

ねらい

単なる観光を超えた、消費行動の変容と環境意識の醸成

「観光 × 環境学習」の新しいモデル

具体的事例2：地域産品消費の促進

具体的事例 | Concrete Case 2

地産地消の推進

済州産ミカン・黒豚など地元農産物・食品の消費を
積極的に推進。
地域内での生産と消費の循環を促進する。

二重の効果

輸送距離の短縮により温室効果ガス排出を削減。
同時に地域経済の活性化と農家収入の安定にも貢献。

食べることが、環境を守ることにつながる

地元産品

輸送削減

循環経済



課題1：オーバーツーリズム

観光の発展がもたらす影の側面

交通渋滞と混雑

人気観光地では交通渋滞や観光客の混雑が
慢性化し、移動困難な状況が生まれている。

騒音問題

観光スポット周辺では騒音が増加し、
静かな地域環境が失われつつある。

住民生活への影響

地域住民の日常生活や生活環境に深刻な影響を
もたらしており、観光と生活の共存が課題となっている。



課題2：廃棄物問題

観光活動がもたらす環境負荷のジレンマ

主な発生源

- 宿泊施設のアメニティ
- 飲食店の使い捨て容器
- 空港・レンタカー利用
- 土産品の過剰包装

観光と環境のジレンマ

- 観光客増加 → 廃棄物増大
- 経済発展と環境保全の矛盾
- 持続可能な解決策が急務



観光産業の発展と環境保全の両立が求められている

課題3：消費者意識の向上

持続可能な未来のために、一人ひとりの行動が鍵となる

政策だけでなく、住民や観光客の行動変容が不可欠。継続的な環境教育を通じて持続可能なライフスタイルを普及させる。



行動変容の促進

ごみの削減やエコな選択など、日常の小さな行動を積み重ねる。



環境教育の充実

自然や文化を学び、環境を守る意識を次世代へつなぐ。



持続可能なライフスタイルの普及

地元産品の利用やサステナブルな消費で、地域と環境にやさしい未来をつくる。

SDGs達成に向けた推進案

消費者一人ひとりの行動から、持続可能な済州へ

観光客の行動変容を促す

- マイボトル・リユース容器の利用
- 使い捨て製品の削減





地域・企業と連携する

- 地元産品の消費を促進
- 宿泊・飲食施設の環境配慮を強化





持続可能な観光を広げる

- 環境教育・SDGs情報を発信
- 観光客・住民・企業が
  協力する仕組みづくり





観光客・住民・企業が協力し、持続可能な消費を広げていきます。

結論

済州道は持続可能な消費の先進地域

2040プラスチックゼロ・カーボンニュートラル・
ESG観光を通じ、消費と環境保全の両立を目指している。

観光客一人一人の意識が鍵

旅行の際には使い捨て製品を減らし、環境に配慮した
行動を意識することが、持続可能な済州を支える。



済州道の経験は、他地域にとっても持続可能な地域づくりのモデルケースとなる。

ご清聴ありがとうございました

行政・企業・住民・観光客が協力し
持続可能な消費文化を形成することが済州道の未来を創る

韓国 済州漢擎大学　1年生　バク・チャンビン

